

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ガボン共和国月報(2024年1月)

2024年1月号
在ガボン日本国大使館

1. 内政・外交

- 1日、ユニオン紙は2023年の回顧特集記事を経済、社会、文化・スポーツその他の各分野にわたって掲載し、経済面では暫定政府は政変から100日間で4,660億セーファーフラン(約7億ユーロ)の債務を返済したことや、社会面では保健・教育・メディア分野に優先的に予算をつけること、政治面では8月の政変を受けた暫定政権の各種外交攻勢等について報じた(1日付UN)。
- 16日、2019年から空席となっていた駐ガボン米国大使について、新たに任命された Vernelle Trim FitzPatrick 大使が着任した。空席期間に臨時代理大使を務めた Thorburn 次席の後任となる。同大使はジョージワシントン大学で国際関係学の修士号を取得しており、米国国務省人口・難民・移民部アフリカ支援局長、アフリカ部西アフリカ局長補、駐カメルーン米国大使館次席など20年以上にわたって米国外交に携わるキャリア外交官である。同大使の着任は、良好な米ガボン関係が更に強化される機会となるだろう(23日付GMT)。
- 18日、ロサタンガ・リニョー大統領府長官は野党党首のシャンブリエ氏を副首相に抜擢するなどの内閣の一部改造を発表した(19日付UN)。

出典: GMT(ガボンメディアタイム)、UN(ユニオン)

(了)